

平成 30 年度滋賀県環境審議会環境企画部会（第 1 回）概要

- 1 開催日時 平成 30 年（2018 年）5 月 31 日（木） 15 時 15 分から 17 時 00 分
- 2 開催場所 滋賀県庁新館 7 階 大会議室（大津市京町四丁目 1 番 1 号）
- 3 出席委員 伊藤委員、鵜飼委員、金谷委員、菊池委員、清水委員、辻委員、東野委員、中野委員、西野委員、仁連委員、秀田委員（代理）、丸山委員、山田委員、吉積委員（以上 14 名）
- 4 議事
(1) 第五次滋賀県環境総合計画（骨子案）について

【配布資料】

- 資料 1 前回環境企画部会（平成 30 年 3 月 27 日）の概要
- 資料 2 第五次環境総合計画の骨子（案）（イメージ図）
- 資料 3 第五次環境総合計画の骨子（案）
- 資料 4 第五次環境総合計画 ー補足資料ー
- 参考資料 1 次期基本構想の骨子（案）
- 参考資料 2 第五次環境基本計画（国）の概要
- 参考資料 3 滋賀の環境 2017（平成 29 年版環境白書）
（滋賀県環境審議会環境企画部会委員名簿、配席図）

- 5 議事概要
(1) 第五次滋賀県環境総合計画（骨子案）について
 - ① 前回環境企画部会（平成 30 年 3 月 27 日）の概要
→ 質疑・意見なし
 - ② 第五次滋賀県環境総合計画（骨子案）について

委員

テンプレートは新しく重要だと感じるが、使い方が分かりにくい。

事務局

概念的なので説明が難しいが、どういうふうにするかのイメージは資料 4 の 6 ページの下図になる。各分野別計画の中でこのテンプレートの考えを取り込むことで、より目標に近づいていく。

委員

テンプレートはこの絵なのですね。そこに課題をはめ込む。社会状況で重要性が違ってくるので、場合によってははめ込めず、抜くこともあるのか。

事務局

課題がこの図のどこに当てはまるのか考え、他の施策との重複、課題の上流や下流に何かがあるというのが見える。

委員

テンプレートは真っ白な形であって、そこに高度経済成長期などの条件を入れた絵があるということか。

事務局

3 ページの下が基本のテンプレートの姿である。

委員

この総合計画により整合とあるが、産業振興ビジョンなどの各部門別計画とのトレードオフの関係が解消され、どう整合されるのか示した方がよい。また、現状の分野別計画の目標や方向性がどうなっているか示すとともに、問題の所在をはっきりさせるため、分野別計画間のトレードオフの現状や解消の考え方や道筋が示されていけばよりよい。

事務局

他の部門別計画は、条例では「整合」とされ、現行計画では「施策の方向性を反映させるものとします。」となっており、相互の関係もあり、今後検討したい。トレードオフの関係については、最近の例では森林における大規模な太陽光発電開発などで、全国では規制の動きもあるが、テンプレートを活用する中で、具体の例も挙げながら、あらかじめトレードオフの解消に役立つような計画としたい。

委員

このような計画では、総論賛成、各論反対となることが多く、テンプレートそのものは良くできているが、実際に具体の施策を摺り合わせるとトレードオフの関係となる場合がある。具体的に「守る」「活かす」「支える」事例として中心的な施策を示し、具体的政策間のトレードオフの関係を考えることが必要ではないか。

部会長

重要な論点だが、今すぐ答えられるものではないと思う。先ほど発言されたお二方の委員と同様の意見で、重要な論点だと考える。SDGs の理念を本当に実現するなら、基本構想の上に環境総合計画を据えないといけないが、それは困難である。SDGs を政策の包み紙にしないためにも、環境と社会と経済の好循環を作り上げることについて、小さいことでも具体的に課題を取り上げるような中身があった方がよいと思う。

委員

琵琶湖底の泥質化の問題や森林問題、さらにはシカやイノシシの問題が原因に結びつくこともありえる。シカなども獣害問題だけでない発想で「活かす」取組につなげることが必要。そういう事例を挙げることでイメージがしやすくなるのではないか。

事務局

我々も具体の課題でテンプレートを使っていけるのか考えたい。例えば、愛知川で魚の産卵に適した土砂などの課題解決の研究を行っているが、テンプレートはトレードオフの解消以上に、施策間のつながりを見えやすくすることが重要な役目と思っており、具体事例としては今後検討したい。

委員

具体的に「守る」「活かす」「支える」の事例を示したほうが良い。また、環境の「偏りなく」という意味が分からない。さらに、資料4の6ページの下「施策のつながりテンプレート使い方のイメージ」で、7つの分野は目標から導き出して適切なものか分からない。例えば、河川のゴミ回収などは環境学習の分野に入るのか、再考をお願いしたい。

事務局

「偏りなく」というのは、循環している中で、赤潮、水草、山で増えているシカなどその循環に「淀み」が生じている状況を指す。この7つの分野は、現在の環境総合計画の施策体系における分野を踏襲している。

委員

7つの分野は理解したが、SDGsの理念なども入れ計画を考える中で、今までの計画に縛られない分野分けを考えるべきではないか。

部会長

何か提案はありますか。

委員

「環境学習による人育て」がトップに出てくる概念なのかと思う。「環境学習」は分野ではなくもっと細かい部分という気がする。「生活と環境」とか、いい言葉ではないが。

委員

資料4の2・3ページの図だが、1960年頃には小さな循環の矢印が3つあるが、3ページの基本図では小さな循環はひとつで、このようにいくつもあるというのが理想ということではないのか。

事務局

ちいさな循環をたくさん作るイメージである。

委員

目標達成のため、県民の実践のために分かりやすく、県民の意識をつなぐためのツールや方策は具体にあるのか。SDGsなどの新たな切り口もあるので。

事務局

県民との関係性をいかに築くのかという視点で、分野別計画にマザーレイク21計画があり、県民との関わりや地域との取組をどうつなぐかなど視点や場を検討していく予定であり、この計画では考え方を示し、そこに繋がっていくようにしたい。

委員

テンプレートは非常に面白く、チャレンジングだが、中身については検討が必要だ。「過不足なく」本当に資源を利用して良いのかという点や、折角、SDGsの理念を入れたのに、第3章以降が今までと同じような内容であるところが気になる。今一度、整理する中で、個々の施策をはめ込むのは良いと思うが、もう少し整理ができたらと思う。箇条書きの目標は全て達成されれば、循環が実現している社会と理解しているが、低炭素などが環境リスクに含まれている形になっており、本来やるべきものが見えにくくなっているのではないかと思う。目標として、これだけでよいのか、表現がこれでいいのか気になった。

委員

環境総合計画とは何か考えていたのだが、まず、最初にビジョンをつくることであり、その後2030年までの目標を設定して、目標が達成できるようにどうするかを考えるのがこの計画だと理解した。どうしてもテンプレートが前に出て来すぎて、なかなか全体像が見るのが難しい。今日は主に「計画の目標」についてだが、「社会の実現」や「循環の構築」を目指してやるのならば、テンプレート上に施策をはめ込んで、無駄を省くなどするのだが、矢印をどうするのか、次回以降考えないといけないと思うし、テンプレートを（循環の）実現と構築のためにうまく利用すべきと思う。また、12年しかないが、評価のためにテンプレートを使って、こうやったらこうなったというものが見えてくるような、難しいとは思いますが定量的な評価できたらよいと思う。折角、施策をテンプレートに入れるのであれば、これを融合してやってみたら、こうなりましたというような、それも最後のテンプレートの中に入ってきて、実現と構築のためにこうしますよという図を描くと分かりやすいと思う。今日の議論だと、どうも行政の中のシステムを少し変えますというような風に聞こえてしまう。

事務局

今、何か具体的なお答えは難しいのですが、基本構想やSDGsの目標年次の2030年までの12年という短くはない期間で、具体の課題を整理しながら、検討したい。

委員

テンプレートの基本形を見る中で、地域の小さな循環をたくさん創るとあるが、これが達成できたとか、いくつ出来たなどの評価できるのか、具体的な作業を教えてください。

事務局

リーサスなどの地域経済循環の評価に加え、具体的には東近江市の環境基本計画などでも、地域でお金が回ったり、循環することなどを環境面での評価と合わせて評価している。

委員

経済で言えばそのとおりだが、環境学習などは経済的なものでは回っていない、違う指標などが必要になると思う。

委員

欧米型なら合理性を考えてお金が単位になるが、我々がそれをするのか疑問。施策によって評価の単位が違ってよいし、総合指標とするならばお金に変換するときに重みをどう付けるかという議論が必要だが、行政の方々がそれをするのか、むしろ研究者の領域だと考える。全体的な総合的ななにかではなく、個々の違った単位の指標でも問題ないと思う。

事務局

いろんな研究が行われ、琵琶湖環境科学研究センターでも、豊かさ指標を研究として、東近江市でも地域のお金の循環や地域の人々のつながりなどを指標としている。引き続き、この部会で議論いただければと思う。

委員

森林が今回も出ていないように思うが、他部局での取組のためか。

事務局

琵琶湖環境部の所管として、森林政策も含まれており、計画の生物多様性の分野に入っている。

委員

テンプレートを改めて見ると、「将来の姿はこの健全な循環のもと実現される」とあるが、この図だけを見ると「地域の小さな循環をたくさん創る」ことが、健全な循環を指すように見える。「過不足ない」「滞りない」「偏りない」ことが、健全な循環を指すことだと図では分からないので、こちらを明示すべきではないか。「地域の小さな循環」をここに置かないか、表現を変え「多様な」とか「ちいさな」を取るとかしたほうがよいのでは。

事務局

十分に表現できていない部分があると思うが、大きな健全な循環に併せて、手の届く範囲での多様な循環をたくさん創ることが大事と考えている。表現は考えたい。

委員

そういうことであれば、「地域の小さな循環」をたくさん示すこともありえるのかと思うが、表現を考えられたらと思う。

部会長

今日の意見を参考にまた事務局で整理していただいて、次回にまた提案をお願いする。それでは、本日の部会はこれで終了させていただく。

(以上)